

中央区ごみ排出実態調査の結果について

区内の家庭や事業所等から排出されたごみ・資源について、その量及び性状等を調査するとともに、区民・事業者のごみの減量・リサイクルに関する意識及び取組状況等を把握するため、令和6年度に中央区ごみ排出実態調査を実施した。

令和元年度調査は5年前の令和元年度に実施されており、令和元年度調査結果との比較をまとめた。

1 家庭ごみ排出原単位調査の結果について（第3章 家庭系ごみ排出原単位調査）

区民1人1日当たりのごみ・資源の排出量を調査するため、調査対象とした集積所に調査員を配置し、排出する区民への聞き取りとごみ・資源の重量の測定を行った。

(単位：g/人日)

分別区分	令和6年度	令和元年度	増減比較	増減率
燃やすごみ	315.4	313.3	2.1	0.7%
燃やさないごみ	13.2	13.0	0.2	1.5%
プラスチック製容器包装	6.1	4.8	1.3	27.1%
紙類	33.3	28.0	5.3	18.9%
ペットボトル	9.8	7.2	2.6	36.1%
びん	33.2	26.0	7.2	27.7%
缶	3.3	3.2	0.1	3.1%
調理器具	0.097	0.073	0.024	32.9%

2 家庭ごみ組成分析調査の結果について（第4章 家庭系ごみ組成分析調査）

家庭から排出されるごみ・資源の組成割合を調査し、正しく分別している割合や、資源の混入状況等を把握するため、調査対象とした集積所からサンプルを回収し、中央清掃工場で組成分析を行った。

①は汚れたプラスチック製容器包装とペットボトルを可燃物に含めた場合

②は汚れたプラスチック製容器包装とペットボトルを資源物に含めた場合

(1) 燃やすごみの組成分析結果（「燃やすごみの日」に排出されたもの）

(単位：%)

組成分析項目	令和6年度		令和元年度		増減比較	
	①	②	①	②	①	②
資源物	19.0	32.3	23.6	36.2	△ 4.6	△ 3.9
可燃物	78.3	65.0	74.8	62.2	3.5	2.8
不燃物	1.7	1.7	0.7	0.7	1.0	1.0
外袋	1.0	1.0	0.9	0.9	0.1	0.1
分別不適物混入率	20.7	34.0	24.3	36.9	△ 3.6	△ 2.9

※ 「組成分析項目」については、中央区ごみ排出実態調査報告書 12・13 ページ参照

※ 燃やすごみの分別不適物混入率＝資源物＋不燃物

(2) 燃やさないごみの組成分析結果（「燃やさないごみの日」に排出されたもの）

(単位：%)

組成分析項目	令和6年度		令和元年度		増減比較	
	①	②	①	②	①	②
資源物	25.8	28.1	24.6	26.0	1.2	2.1
可燃物	16.9	14.6	17.4	16.0	△ 0.5	△ 1.4
不燃物	56.2	56.2	57.2	57.2	△ 1.0	△ 1.0
外袋	1.1	1.1	0.8	0.8	0.3	0.3
分別不適合物混入率	42.7	42.7	42.0	42.0	0.7	0.7

※ 「組成分析項目」については、中央区ごみ排出実態調査報告書 12・13 ページ参照

※ 燃やさないごみの分別不適合物混入率＝資源物＋可燃物

(3) プラスチック製容器包装の組成分析結果（「プラマークの日」に排出されたもの）

(単位：%)

組成分析項目	令和6年度		令和元年度		増減比較	
	①	②	①	②	①	②
資源物(プラマーク)	45.0	80.2	47.1	74.3	△ 2.1	5.9
資源物(プラマーク以外)	2.0	2.5	4.4	4.5	△ 2.4	△ 2.0
可燃物	48.9	13.2	45.0	17.7	3.9	△ 4.5
不燃物	0.8	0.8	0.4	0.4	0.4	0.4
外袋	3.2	3.2	3.1	3.1	0.1	0.1
分別不適合物混入率	51.7	16.5	49.8	22.6	1.9	△ 6.1

※ 「組成分析項目」については、中央区ごみ排出実態調査報告書 12・13 ページ参照

※ プラスチック製容器包装の分別不適合物混入率＝資源物（プラマーク以外）＋可燃物＋不燃物

(4) 資源の組成分析結果（「資源の日」に排出されたもの）

(単位：%)

組成分析項目	令和6年度		令和元年度		増減比較	
	①	②	①	②	①	②
資源物(プラマーク)	0.5	1.0	0.1	0.2	0.4	0.8
資源物(プラマーク以外)	95.1	96.0	97.4	97.5	△ 2.3	△ 1.5
可燃物	3.0	1.6	0.6	0.4	2.4	1.2
不燃物	0.4	0.4	1.2	1.2	△ 0.8	△ 0.8
外袋	1.0	1.0	0.7	0.7	0.3	0.3
分別不適合物混入率	3.9	3.0	1.9	1.8	2.0	1.2

※ 「組成分析項目」については、中央区ごみ排出実態調査報告書 12・13 ページ参照

※ 資源の分別不適合物混入率＝資源物（プラマーク）＋可燃物＋不燃物

3 区民アンケート調査の結果について（第5章 区民アンケート調査）

区民がごみ・資源をどのように分別・処理しているか、ごみ処理・3R等についてどのような考え方を持っているかを把握するため、区民アンケートを実施した。

(1) 区民アンケートの発送数と有効回収率

(単位：票)

	令和6年度	令和元年度	増減比較
総発送数	2,000	2,000	0
有効発送数	1,988	1,984	4
回収数	562	529	33
有効回収率	28.3%	26.7%	1.6%

※ 有効回収率＝回収数÷有効発送数

(2) 回答者の属性

年齢：50代以上が62.1%となり令和元年度調査(54.1%)から8.0ポイント増加した。
 性別：女性が54.4%となり令和元年度調査(58.2%)から3.8ポイント減少した。
 世帯人数：1人が21.5%となり令和元年度調査(28.2%)から6.7ポイント減少した。
 住居形態：集合住宅が合わせて87.8%となり令和元年度調査(87.4%)から0.4ポイント増加した。

(3) 主な調査結果

※ 令和元年度調査との変更点

- ・外食時の食品ロス削減についての取組に関する設問を追加した。
- ・フードシェアリングサービスに関する設問を追加した。

ア 食品ロスの削減について取り組んでいること（複数回答）

令和元年度調査と比較して、家庭での食品ロス削減についての取組を行っているという回答した割合が増加した。

また、外食時に食品ロス削減についての取組を行っているという回答した割合が9割以上であった。

【家庭】

(単位：%)

回答項目	令和6年度	令和元年度
購入したものは使い切る（食べきる）ようにしている	77.8	69.8
買い物の前に冷蔵庫内を確認し、必要なものだけを購入している	60.7	53.3

【外食】※初設問

(単位：%)

回答項目	令和6年度	令和元年度
外食の際は、食べきれぬ量を注文している	90.6	
食べ残した料理を、お店の方に確認して持ち帰っている	18.5	

イ フードドライブの認知（単一回答）

「知っているが、利用したことがない」と回答した割合の合計が48.3%となった。令和元年度調査時は「知っている」と回答した割合が37.1%であったため、令和元年度調査と比較してフードドライブの認知が進んでいることがわかった。

(単位：%)

回答項目	令和6年度	令和元年度
知っている利用したことがある	6.0	
知っているが、利用したことがない	42.3	
知らなかったが利用してみたい	32.9	
知らなかった。興味がない	14.2	

ウ フードシェアリングサービスについて（単一回答）

「ぜひ利用したい」と「機会があれば利用したい」と回答した割合の合計が67.2%となり、肯定的な回答が多く得られた。

【今後の利用について】

(単位：%)

回答項目	令和6年度	令和元年度
ぜひ利用したい	10.1	
機会があれば利用したい	57.1	
特に利用したいと思わない	29.0	

エ ごみ排出抑制の取組（複数回答・初設問）

(単位：%)

回答項目	令和6年度	令和元年度
必要なものを必要な量だけ購入している	73.8	
生ごみは水分を切って捨てている	56.2	
ものを買うときは、長く使えるもの、修理可能なものを選ぶようにしている。	38.4	

オ 使い捨てプラスチック類の削減について取り組んでいること（複数回答・初設問）

(単位：%)

回答項目	令和6年度	令和元年度
詰め替え商品を利用している	67.1	
簡易包装を選択するようにしている	50.0	
使い捨てのプラスチック製ストローやスプーンなどの利用を断っている	34.0	
マイカップ・マイボトルを利用している	30.4	

カ 雑紙（菓子箱・包装紙など）の処分方法（単一回答）

令和元年度調査と比較して、「燃やすごみの日」と回答した割合が減少し、「資源の日」と回答した割合が増加した。適正な排出が進んでいることがわかった。

(単位：%)

回 答 項 目	令和6年度	令和元年度
燃やすごみの日	45.6	49.5
資源の日	36.8	27.2

キ 充電式電池の処分方法（単一回答）

令和元年度調査と比較して「燃やさないごみの日」と回答した割合が減少したが、「区施設の回収箱」と「小学校の回収」の割合が増加した。拠点回収で回収していることへの理解が進んでいることがわかった。

(単位：%)

回 答 項 目	令和6年度	令和元年度
燃やさないごみの日	23.1	25.5
資源の日	16.0	12.1
区施設の回収箱	8.9	7.4
小学校の回収	4.3	2.3

4 事業所アンケート調査の結果について（第6章 事業所アンケート調査）

事業所がごみ・資源をどのように分別・処理しているか、ごみ処理・3R等についてどのような考え方を持っているかを把握するため、事業所アンケートを実施した。

(1) アンケートの発送数と有効回収率

(単位：票)

	令和6年度	令和元年度	増減比較
総発送数	5,000	5,000	0
有効発送数	4,799	4,941	△ 142
回収数	1,279	1,211	68
有効回収率	26.7%	24.5%	2.2%

※ 有効回収率＝回収数÷有効発送数

(2) 回答者の属性

業 種：「その他」が50.0%と最も多く、令和元年度調査(41.5%)から8.5ポイント増加した。うち、「病院・診療所」については、10.2ポイント増加した。また、「建設業」、「製造業」等が増加し、「金融・保険・不動産業」等が減少した。

従業員数：「1～4人」が37.0%と最も多く、令和元年度調査(36.6%)からほぼ横ばいであった。

「5～9人」は25.8%となり、令和元年度調査(24.6%)からほぼ横ばいであった。

「30人以上」は9.9%となり、令和元年度調査(12.1%)から減少した。

(3) 主な調査結果

※ 令和元年度調査との変更点

- ・「ちゅうおう食べきり協力店」に関する設問を追加した。

ア ごみ減量及びリサイクル推進への取組（複数回答）

事業所での取組については、令和元年度調査と比較して「特に何もしていない」と回答した割合が減少し、具体的な取組を行っているという回答した割合が増加した。事業所で行うごみ減量及びリサイクル推進の取組が進んでいることがわかった。

顧客に対して行う取組については、具体的な取組を行っているという回答している割合が増えた一方で「特に何もしていない」と回答した割合が6割程度あった。

【事業所で行っているもの】

(単位：%)

回答項目	令和6年度	令和元年度
職場に資源の分別ボックスを設置している	61.9	52.4
事務用品などに再生品を積極的に使用している	33.2	26.4
特に何もしていない	17.3	25.8

【顧客に対して行っているもの】

(単位：%)

回答項目	令和6年度	令和元年度
商品の過剰包装をやめたり、梱包剤を簡易的なものになっている	15.5	12.8
製品の原材料に再生資源を積極的に取り入れている	7.3	5.2
特に何もしていない	59.8	56.5

イ 食品ロス削減の取組（複数回答）

令和元年度調査と比較して「特に何もしていない」と回答した割合が増加し、5割を超えた。「過剰生産の削減を行っている」と回答した割合も減少し、食品ロス削減についての取組が後退した。

(単位：%)

回答項目	令和6年度	令和元年度
過剰生産の削減を行っている	20.2	27.0
食べきり運動の推進を行っている	11.6	10.7
特に何もしていない	54.3	42.6

ウ 有料ごみ処理券の貼付（単一回答）

資源はごみと比較して、「いつも貼付している」と回答した割合が低かった。「資源は出していない」と回答した割合が3割程度あることが要因と考えられる。

【ごみ】 (単位：%)

回答項目	令和6年度	令和元年度
いつも貼付している	78.6	82.4

【資源】 (単位：%)

回答項目	令和6年度	令和元年度
いつも貼付している	52.1	51.0
資源は出していない	26.5	25.7

エ ちゅうおうエコ・オフィス町内会の認知・参加（単一回答）

令和元年度調査と比較して大きな傾向の変化は見られなかった。

(単位：%)

回答項目	令和6年度	令和元年度
知らなかった	89.9	90.7
知っているが参加していない	4.7	4.7

オ 「ちゅうおう食べきり協力店」制度の認知度（単一回答・初設問）

(単位：%)

回答項目	令和6年度	令和元年度
知らない	97.2	

カ 事業所で発生している「その他リサイクル可能な紙類」（複数回答）

令和元年度調査と比較していずれの「その他リサイクル可能な紙類」も大きく増加したが、「その他リサイクル可能な紙類」が発生している事業所の割合は減少した。

(単位：%)

回答項目	令和6年度	令和元年度
包装紙（OA用紙の包装紙など）	89.9	64.5
チラシなど	82.6	54.7
封筒	81.5	61.1

キ 事業所で発生している「その他リサイクル不可な紙類」（複数回答）

令和元年度調査と比較していずれの「その他リサイクル不可な紙類」も増加した。また、「その他リサイクル不可な紙類」が増えたと認識している事業所も増加した。

(単位：%)

回答項目	令和6年度	令和元年度
詰物・クッション材など	46.5	40.4
感熱紙（レシートなど）	44.8	32.0
防水加工紙（紙コップなど）	44.8	37.4

5 中央区のごみ・資源量の推計結果について（第7章 中央区のごみ・資源量の推計）

（1）家庭ごみ・資源の推計量

（単位:t）

区分	令和6年度	令和元年度	増減比較	増減率	備考(令和6年度実績)
ごみ量	24,279.7	21,559.6	2,720.1	12.6%	24,151.0
資源量	10,161.6	9,271.7	889.9	9.6%	—
発生量	34,441.3	30,831.3	3,610.0	11.7%	—

（2）区民1人1日当たりの家庭ごみ・資源の推計量

（単位:g/人日）

区分	令和6年度	令和元年度	増減比較	増減率	備考(令和6年度実績)
ごみ量	356.7	353.5	3.2	0.9%	354.8
資源量	149.3	152.0	△2.7	△1.8%	—
発生量	506.0	505.5	0.5	0.1%	—

※ 令和元年度の人口は 167,103 人（令和元年 10 月 1 日）

※ 令和6年度の人口は 186,496 人（令和6年 10 月 1 日）

（3）家庭ごみにおける製品プラスチックの推計

燃やすごみ、燃やさないごみに含まれる資源化可能な製品プラスチックの排出量について、組成分析調査をした結果、製品プラスチックは燃やすごみに 3.9%、燃やさないごみに 9.8%含まれていた。令和6年度の燃やすごみの家庭ごみの推計量は 21,466.9 トン、燃やさないごみの家庭ごみ推計量は 896.0 トンのため、令和6年度における燃やすごみ中に含まれる製品プラスチック量は 837.2 トン、燃やさないごみ中に含まれる製品プラスチック量は 87.8 トンと推計される。

（4）事業系ごみ・資源の推計量

（単位:t）

区分	令和6年度	令和元年度	増減比較	増減率	備考(令和6年度実績)
ごみ量	64,217.2	86,730.7	△22,513.5	△25.6%	65,006.4
資源量	83,879.3	131,845.9	△47,966.6	△36.4%	—
発生量	148,096.5	218,576.6	△70,480.1	△32.2%	—

（5）従業員1人1日当たりの事業系ごみ・資源の推計量

（単位:g/人日）

区分	令和6年度	令和元年度	増減比較	増減率	備考(令和6年度実績)
ごみ量	227.4	314.3	△86.9	△27.6%	230.1
資源量	297.0	477.8	△180.8	△37.8%	—
発生量	524.3	792.1	△267.8	△33.8%	—

※ 令和元年度従業者総数 756,052 人（平成26年経済センサス基礎調査）

※ 令和6年度従業者総数 773,854 人（令和3年経済センサス基礎調査）

（6）中央区のごみ・資源の推計量（全体）

（単位:t）

区分	令和6年度	令和元年度	増減比較	増減率	備考(令和6年度実績)	
ごみ・資源量	家庭	34,441.3	30,831.3	3,610.0	11.7%	34,407.0
	事業系	148,096.5	218,576.6	△70,480.1	△32.2%	—
	合計	182,537.8	249,407.9	△66,870.1	△26.8%	—

(7) 区収集における家庭ごみ及び事業系ごみの比率

(単位：t)

区分		令和6年度		令和元年度		増減比較	
		発生量	割合	発生量	割合	発生量	割合
ごみ量	家庭	24,279.7	68.7%	21,559.6	59.1%	2,720.1	9.6%
	事業系	11,077.7	31.3%	14,901.0	40.9%	△3,823.3	△9.6%
	合計	35,357.4	100.0%	36,460.6	100.0%	△1,103.2	0.0%
資源量	家庭	5,933.7	66.7%	4,339.8	57.0%	1,593.9	9.7%
	事業系	2,955.8	33.3%	3,272.1	43.0%	△316.3	△9.7%
	合計	8,889.5	100.0%	7,611.9	100.0%	1,277.6	0.0%
発生量	家庭	30,213.4	68.3%	25,899.4	58.8%	4,314.0	9.5%
	事業系	14,033.5	31.7%	18,173.1	41.2%	△4,139.6	△9.5%
	合計	44,246.9	100.0%	44,072.5	100.0%	174.4	0.0%